

ライフサイクルと家族・地域のマイクロ・メゾシステムの 二次元軸に対応する健康管理システムの検討

渡部 尚子¹⁾，佐山 光子¹⁾

要約：わが国の保健事業における健康管理システムは、各ライフステージに焦点をあて、各世代の持つ健康問題にかなりよく対応し、それなりの評価を得ていると思われる。しかしながら、これを個のライフサイクルに沿った連続的な視点でみると、或は個が家族・地域との関わりをもった相互的な視点でみると幾つかの欠落部分があり、必ずしも十分に機能しているとは云い難い。将来、高齢化社会に向けて人々の健康管理を考える時、上記の個のライフサイクルにそった一次元軸と、個が家族や地域に帰属しマイクロ・メゾシステムにそった二次元軸への同時的働きかけが必須となり、母子保健事業の効率的運用も、この位置づけの中で検討される必要がある。今回は、周産期を起点とし新生児・乳幼児・学童期にわたる母子保健事業の傘下にある時期の二次元的健康管理システムについて検討した。

見出し語：健康管理システム、ライフサイクル、家族単位、家族中心的保健、情報把握機関

出生前後から思春期にいたるライフサイクルに沿った健康管理システムについてみると、妊産婦及び新生児・乳幼児に対して正常・異常別、個・集団別に各種健診・指導・教育・相談・療育等実施されている。しかし、このシステムを個の健康状態の経時的あるいは連続的観点からみると多くの欠落部分がある。

で、乳児・1歳半・3歳児健診は市町村で実施されるが、前者の医療情報は後者に受け継がれていない。また、3歳から学童にいたる3年間には、定期的な健康診査によるチェックシステムがないばかりか、この期の多くの児が生活する保育所・幼稚園での健康管理は不徹底で、個の健康についての継続的・累積的な医療情報伝達は皆無にち

例えば、出生時および1ヵ月後健診は医療機関なく、当然のことながら必要な健康管理も欠

1) 埼玉県立衛生短期大学看護学科

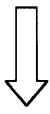
落・不徹底・重複等が起きている。

一方、個が帰属する地域・家族のマイホーム・コミュニティの観点から健康管理をみると、個をめぐる家族成員の保健管理事業は根拠法令に従って各ライフステージにより実施主体が異なり、家族個々がばらばらに管理されている。

個の心身の健康は、地域や家族、特に「家族相互のかかわり」と「家族成員が生活を営む場」の影響を大きく受ける。従ってこの健康を全人的な保健指導、生活指導のプラットフォームにおいて管理するためには生物社会的・精神社会的側面を考慮した家族単位の家族中心的保健のプラットフォームが求められなければならない。

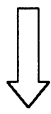
将来の高齢化社会に向けて人々の健康管理の対応を考えると、まず一次元軸としての個の保健管理情報と、その個々を家族単位でとらえる二次元軸としての情報の集約システムを確立する必要がある。平山は、個に対して健診結果を一か所に集中して管理することを提起しているが、加えて家族単位の健康・保健情報をも把握し、リスクのある場合の対応諸機関への情報提供、高次医療への情報転送等を確実にするきめ細かい健康管理体制を検討する必要がある。

こうした見地にたって、情報内容、プラットフォーム・保護、情報利用者の資格と範囲、機関連携等の諸問題を今後明かにしたい。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:わが国の保健事業における健康管理システムは、各ライフステージに焦点をあて、各世代の持つ健康問題にかなりよく対応し、それなりの評価を得ていると思われる。しかしながら、これを個のライフサイクルに沿った連続的な視点でみると、或は個が家族・地域との関わりをもった相互的な視点でみると幾つかの欠落部分があり、必ずしも十分に機能しているとは云い難い。将来、高齢化社会に向けけて人々の健康管理を考える時、上記の個のライフサイクルにそった一次元軸と、個が家族や地域に帰属しマイクロ・メゾシステムにそった二次元軸への同時的働きかけが必須となり、母子保健事業の効率的運用も、この位置づけの中で検討される必要がある。今回は、周産期を起点とし新生児・乳幼児・学童期にわたる母子保健事業の傘下にある時期の二次元的健康管理システムについて検討した。